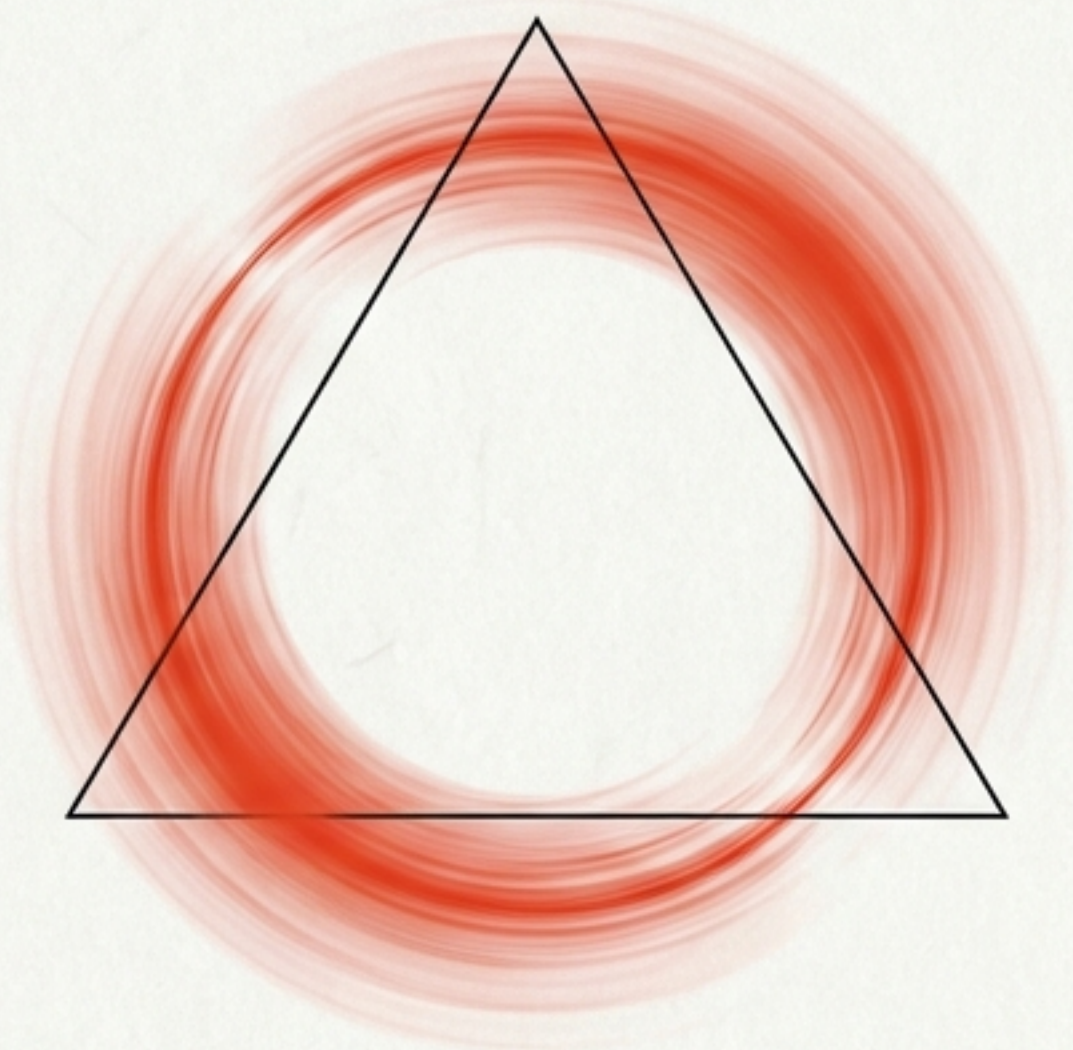


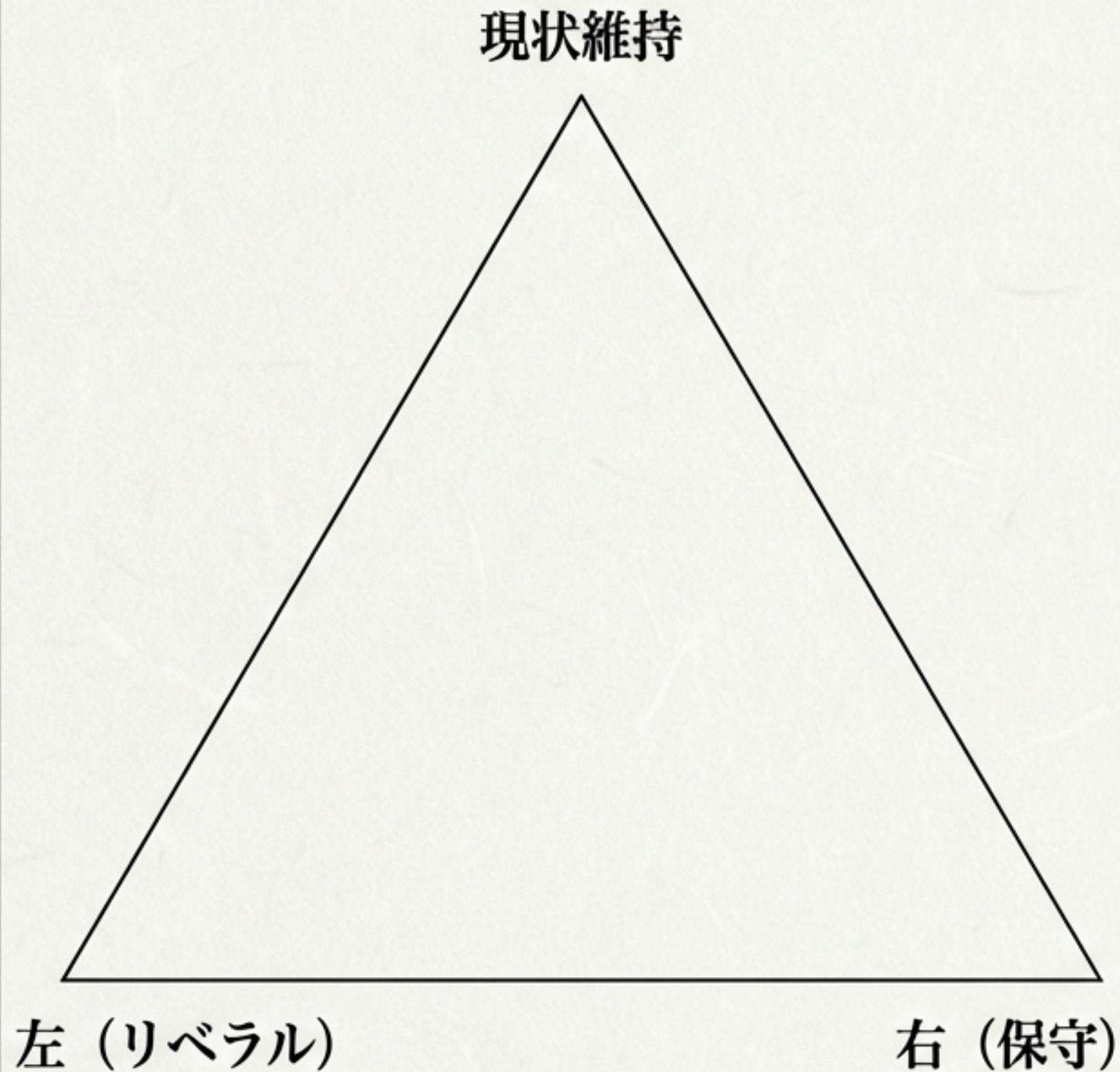


日本政治の正体：三角形から円環へ

なぜ「右派・左派」の対立軸では、この国の動態を説明できないのか

Understanding as a Cyclical Structure

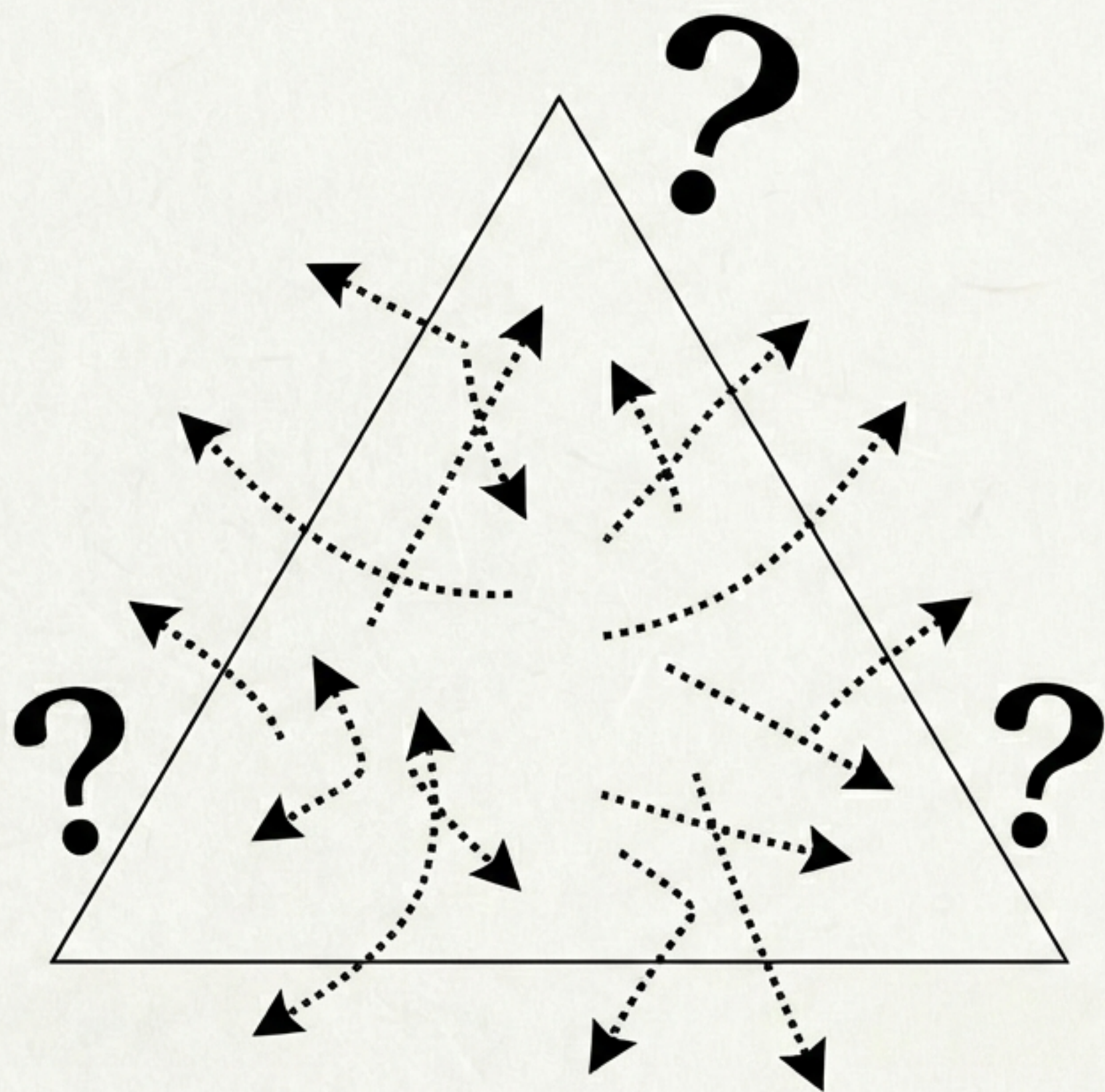
既存のモデル：三角形の限界



通常、政治は「空間配置」として理解される。

- 右（保守） vs 左（リベラル）
- そして頂点にある 現状維持

三角形モデルは、ある瞬間の「位置関係」を示すには有効である。しかし、それは**静止画（スナップショット）**に過ぎない。



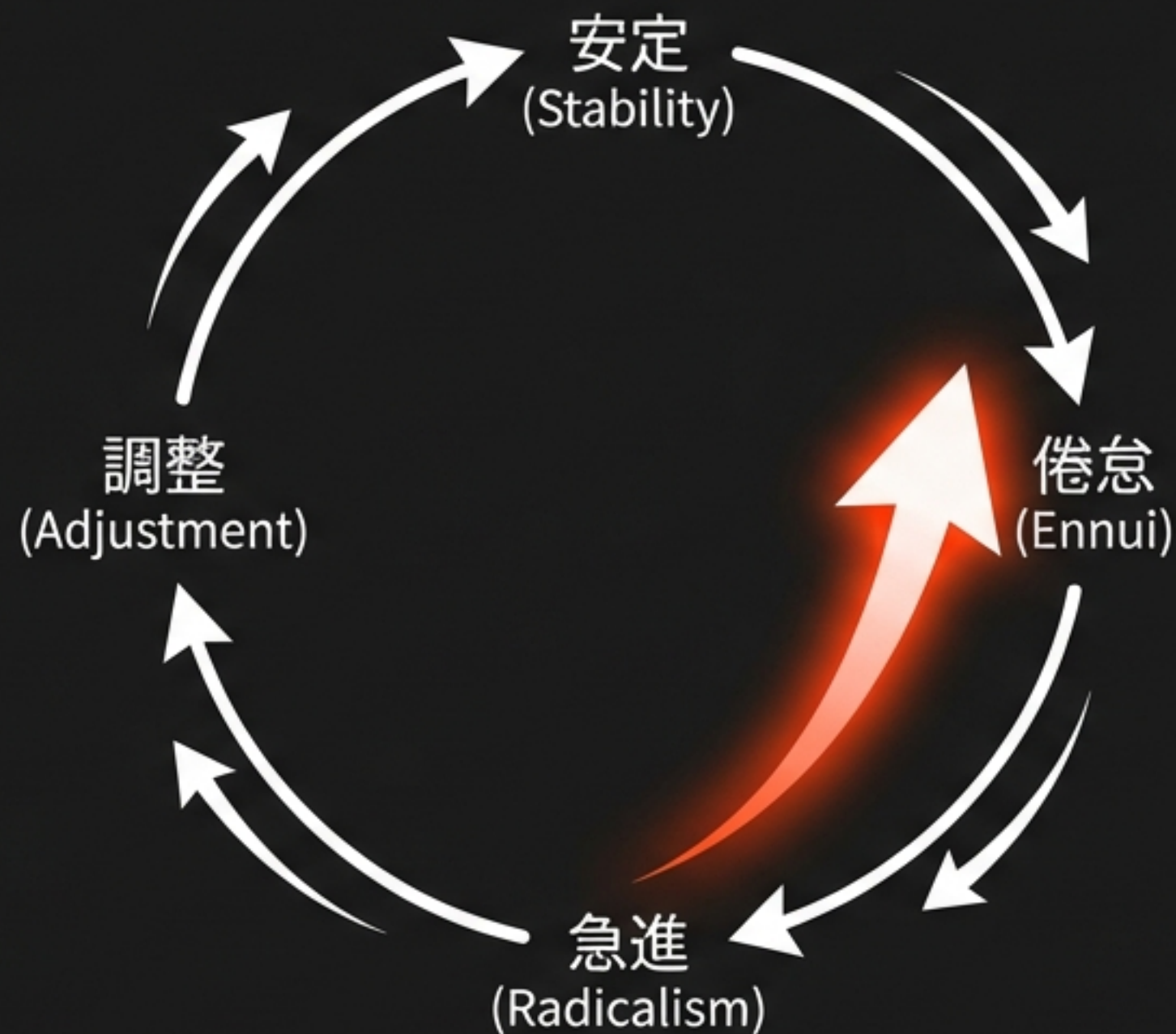
三角形が説明できない「時間と運動」

- 移動の謎: なぜ政治的重心は移動するのか？
- 順序の謎: どのような順序で変化が起きるのか？
- 回帰の謎: なぜ、常に「元の場所」に戻ってしまうのか？

日本政治の特徴は、**位置の対立**ではなく**「循環的傾向」**にある。

パラダイムシフト：円環（サイクル）モデル

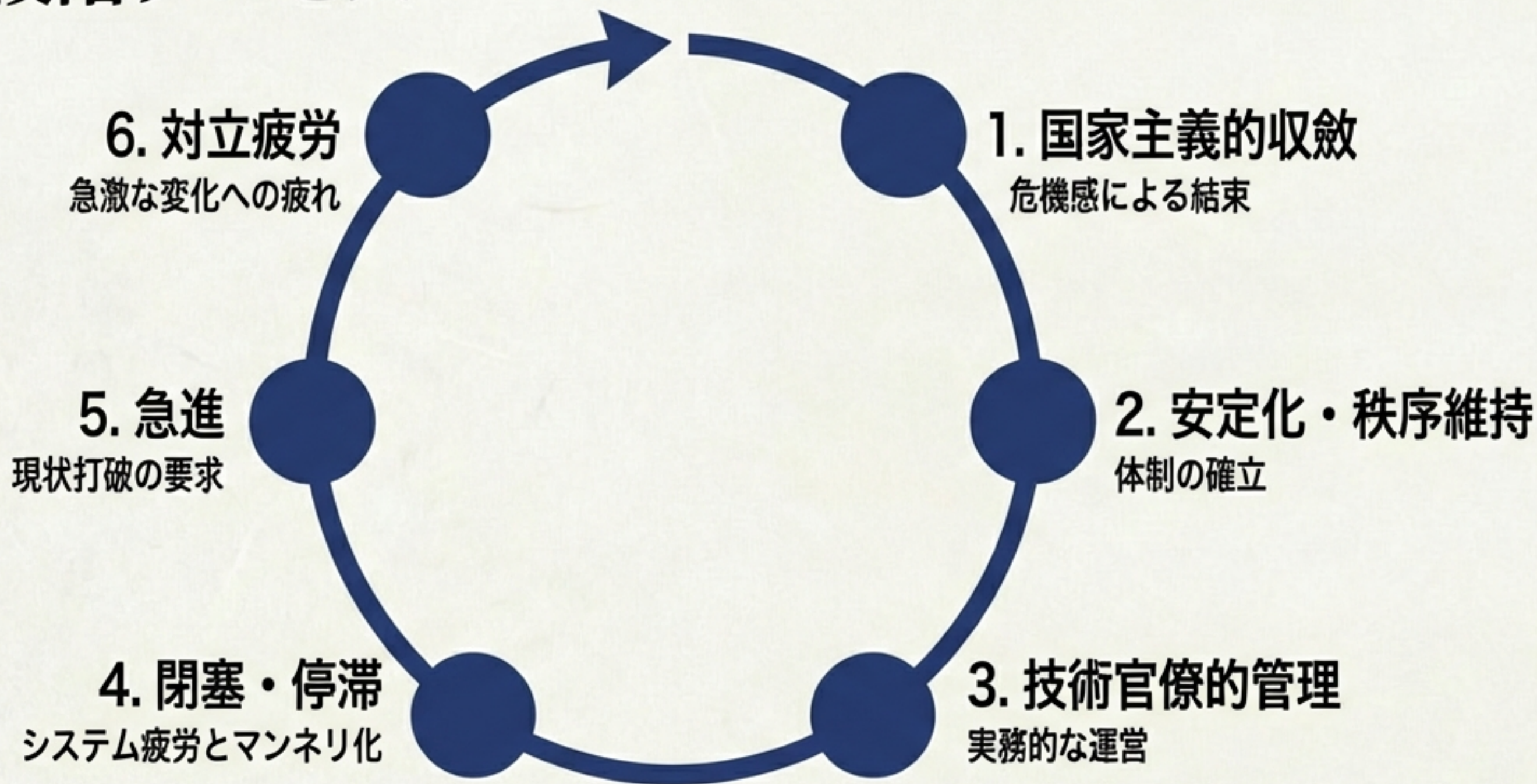
三角形を「時間軸」で捉え直すと、円環になる。



「右と左は対立しているようで、実は循環している」

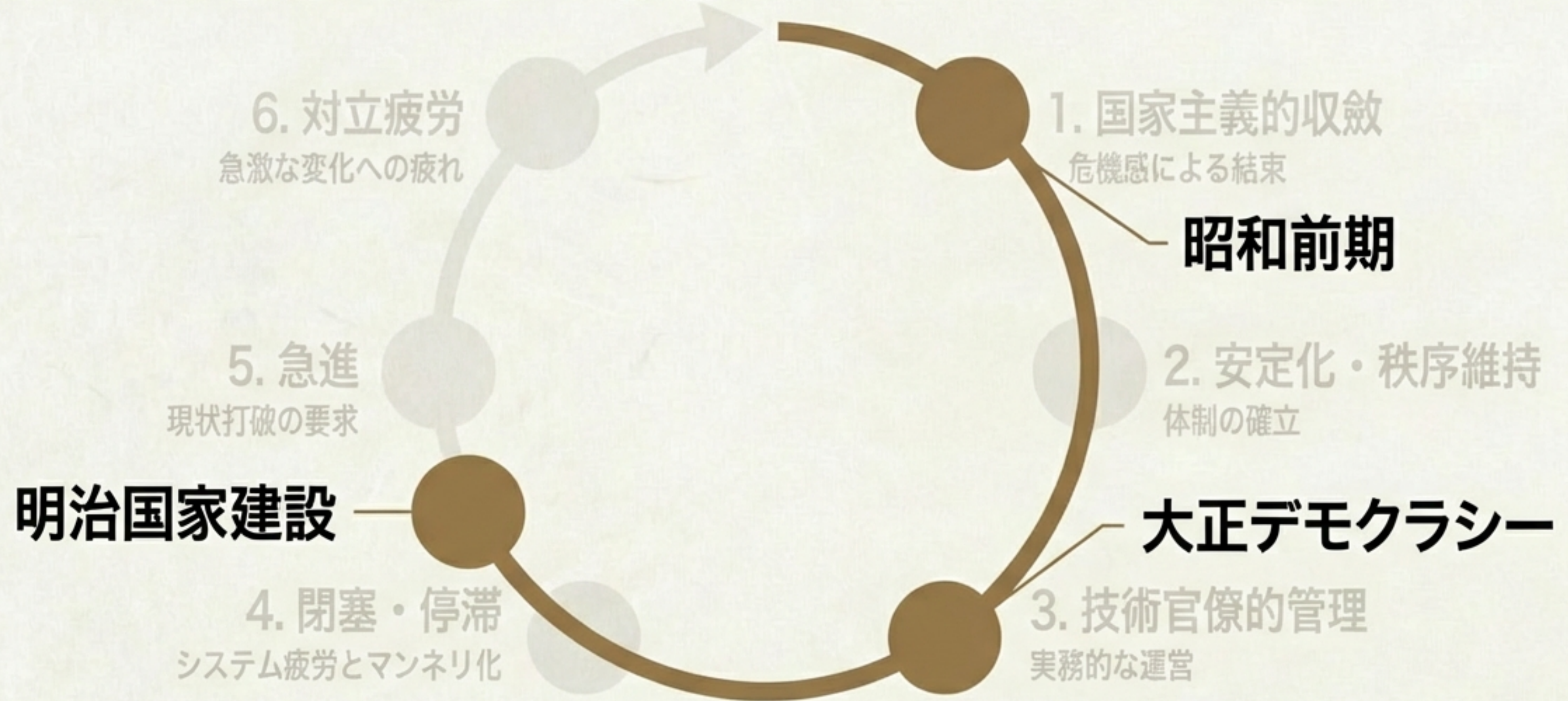
対立構造に見えるものは、実はひとつの巨大なサイクルの断面に過ぎない。

循環の6段階プロセス



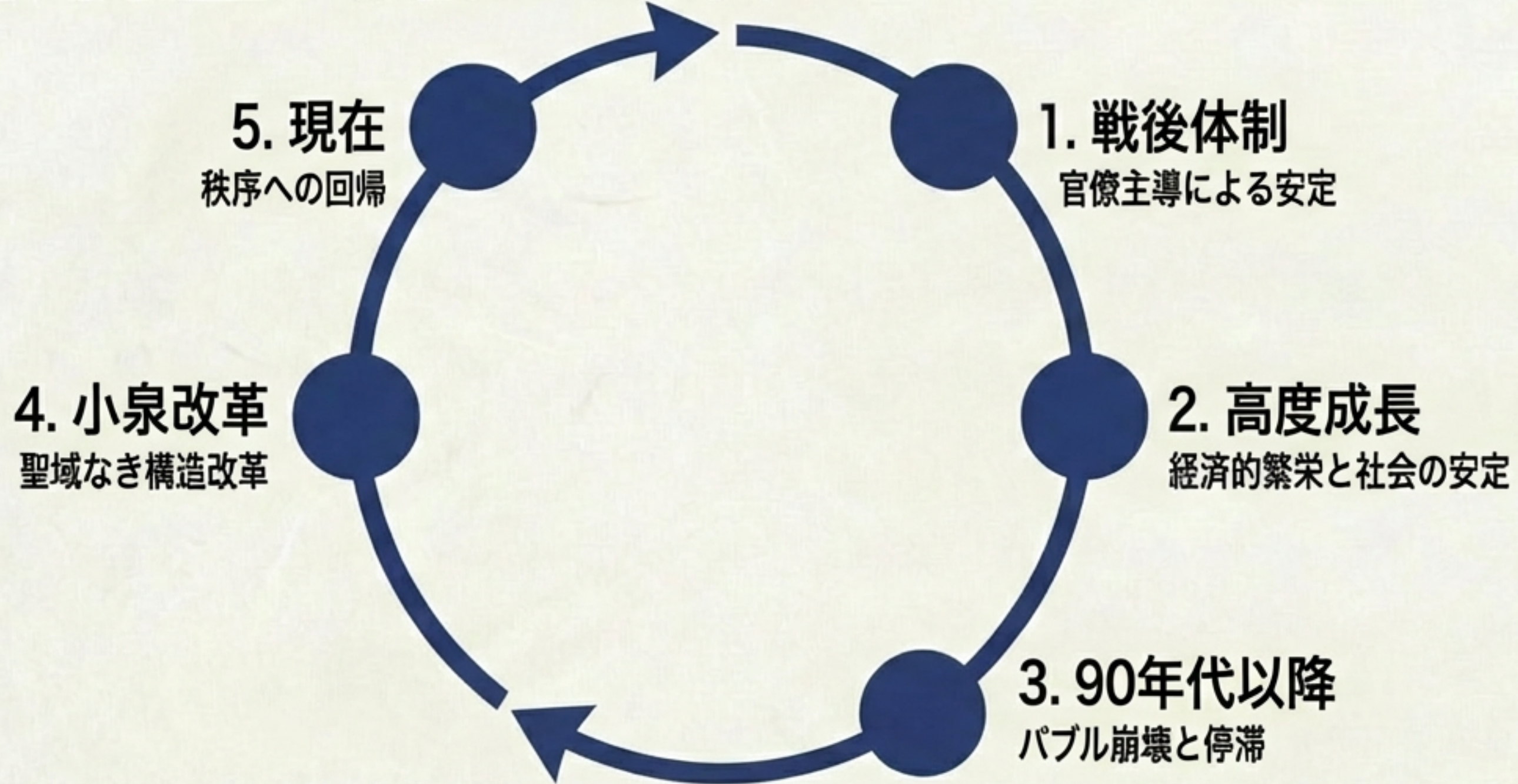
「急進」は「調整」を経て「安定」し、やがて「倦怠」を生む。その反動が再び「急進」を呼ぶ。

歴史による検証：戦前の振幅



明治の緊張から大正の緩和、そして昭和の引き締めへ。振り子は正確に往復している。

歴史による検証：戦後から現代へ



改革の熱狂の後、必ず「安定」という重力がすべてを引き戻す。

なぜ円環を描くのか？ 3つの駆動力

① 関係維持文化

日本では対立が長期化しにくい。強い理念闘争は「疲労」を生み、調整と和を求める圧力が働く。

② 官僚国家の慣性

政権（政治家）が変わっても、行政機構は継続する。急激な変化はシステムに吸収され、再び安定軌道へ戻される。

③ 情動の波動性

怒りは持続しない。情動的な政治動員は一時的であり、熱狂が冷めると急進派は力を失う。



円環の中心にあるもの：「社会秩序」という重力

欧米モデル (Western Model)



理念対立が制度的に固定化される。

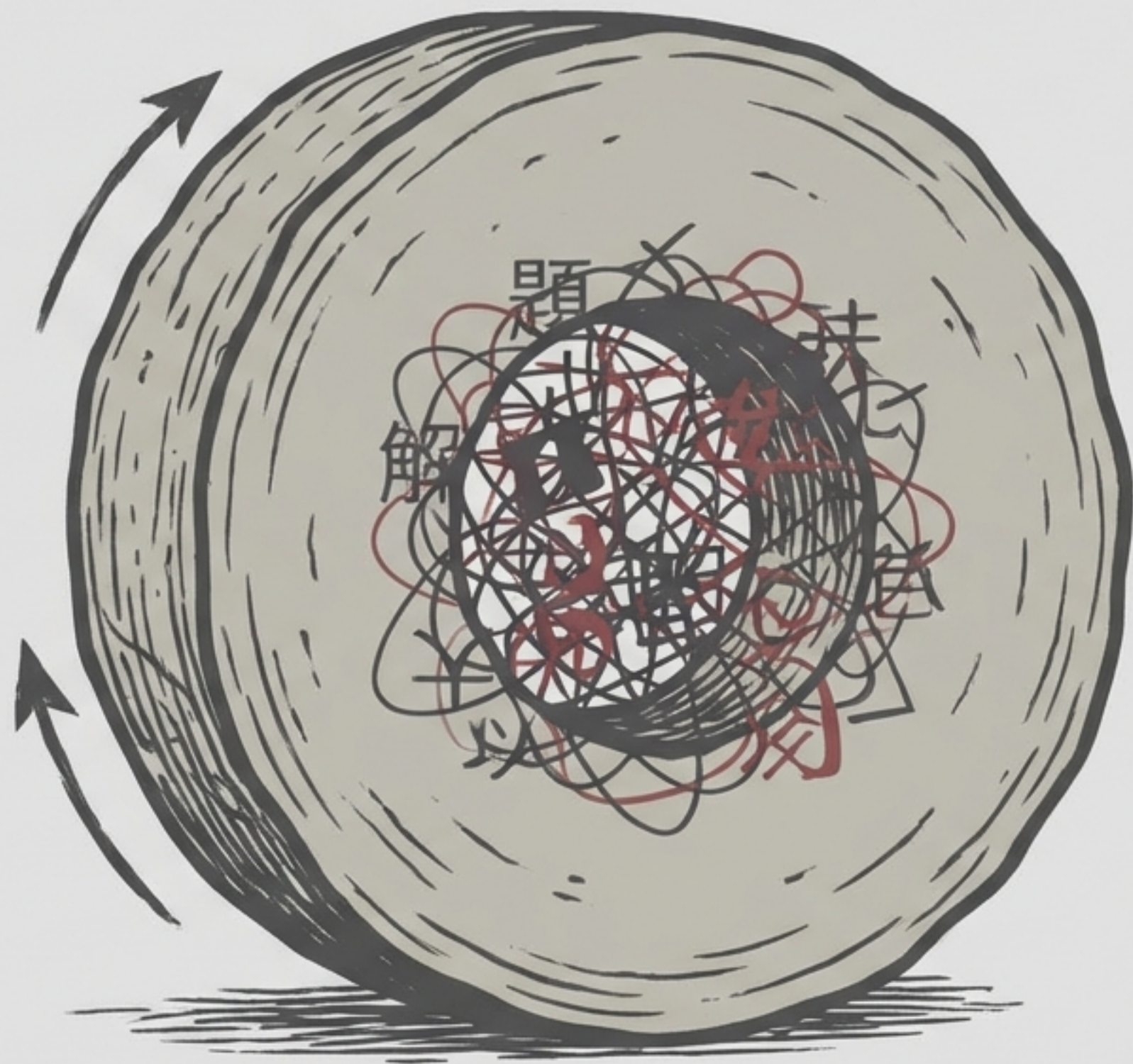
日本モデル (Japan Model)



全てが中心に吸い寄せられる。

「対立はエネルギー放出の後、秩序に吸収される」

円環構造のリスク：安定の代償



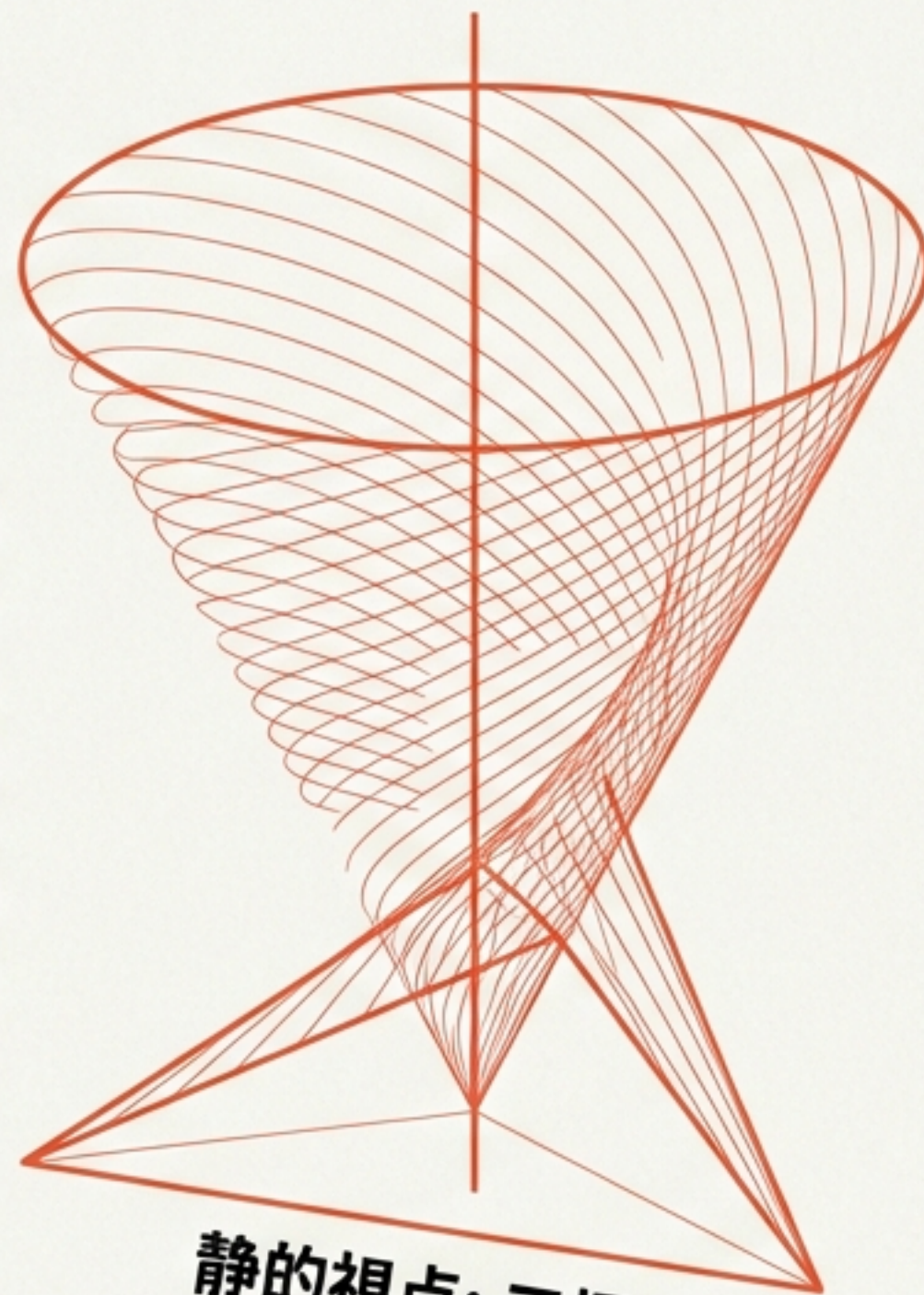
- 長期的構造改革の困難: 根本的な変化が「吸収」されてしまう。
- 問題の先送り: 秩序維持が優先され、解決が後回しになる。
- 緩慢な衰退: 劇的な崩壊はないが、徐々に活力が失われる。

**「革命は起きにくいが、
再生も遅い。」**

統合モデル：静的な三角形、動的な円環

動的視点: 循環

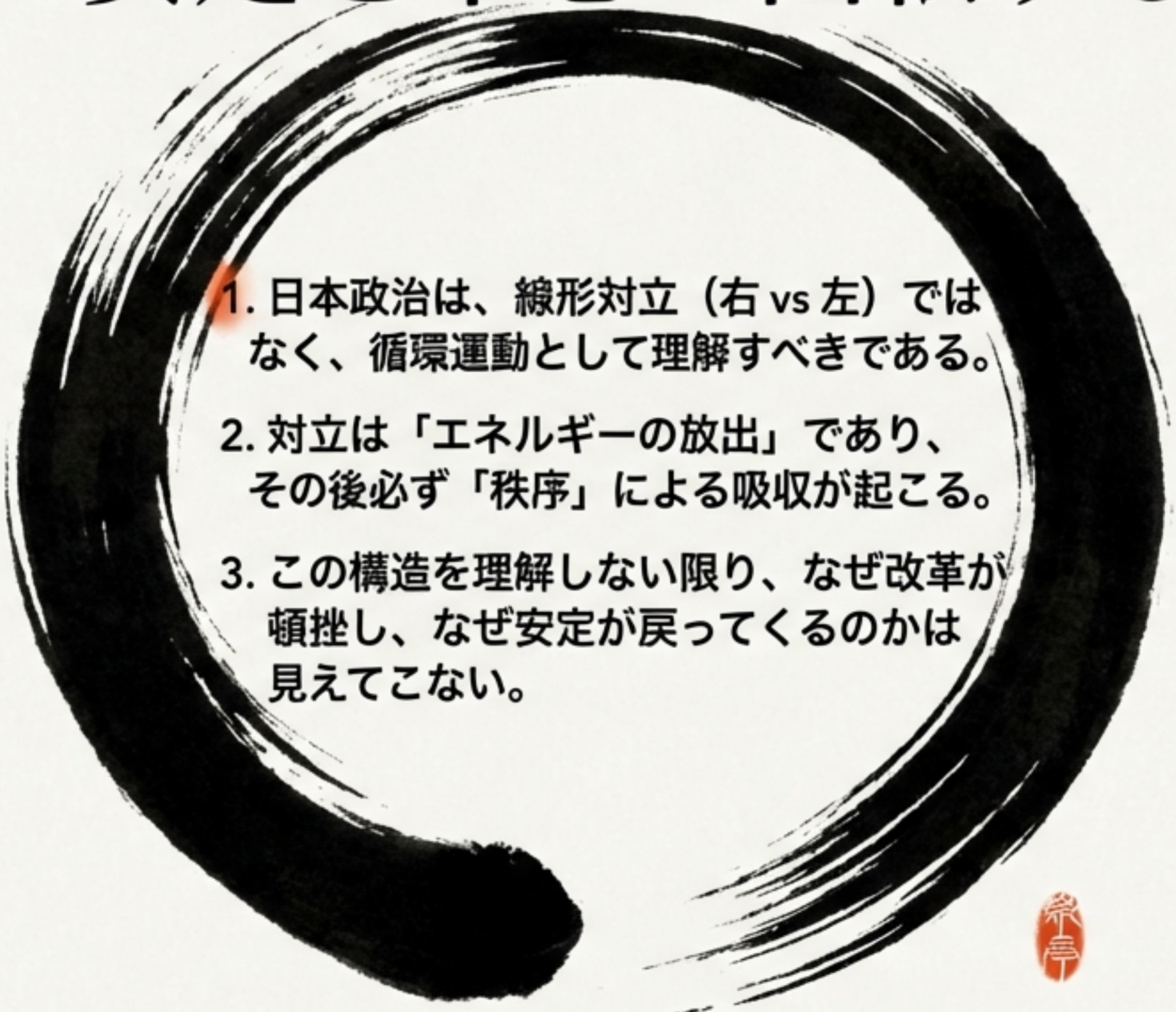
時間軸 (Time Axis)



静的視点: 三極

現状維持の頂点は
「固定点」ではなく、
周期的に再帰する
「重力中心」である。

結論：安定を中心に回転する円環

- 
1. 日本政治は、線形対立（右 vs 左）ではなく、循環運動として理解すべきである。
 2. 対立は「エネルギーの放出」であり、その後必ず「秩序」による吸収が起こる。
 3. この構造を理解しない限り、なぜ改革が頓挫し、なぜ安定が戻ってくるのかは見えてこない。

対立もまた、秩序の一部に過ぎない。